midorinodam.jp

NPO法人
緑のダム
北相模

April 2013 No.349-350

４月号の１枚：高井戸中の活動から。見事な間伐、とはいかずに掛かり木

［巻頭言］ 森林整備活動・地域の人々と協働

森の人々が森に帰って来てくれた

小原町内会から「懇親会・演芸会をやるから来ないか」と言うご案内を頂いたので出かけた。会は、和やかでとても楽しかった。合間に地域の方から「うちの森の手入れをしてくれませんか」と言う申し出があった。森仲間たちは「よし、やりましょう」と快諾した。次の「小原本陣の森：定例活動日」にその現場に出かけたら、お申し出の方以外に町の方々が既に待っていて下さっていた。

この15年間、地域の人々が待っていてくれて一緒に作業をした事がないので「森の人々が森に帰って来てくれた！」と感じた。２０人ほど集まった森仲間も、同じだろうと思う。作業が始まったら見事、森仲間との〝阿吽の呼吸”で森は見る見る、美しくなって行く。心を一つに合わせればあらゆる事が解決できる。

こうして良い木を育て、製品開発し、健全な流通の仕組みをつくり、快適な生活環境を生み出せば「森林・林業の復権」が可能となる。当会の「小原本陣の森」の森林整備活動は、未だ小さな活動だが地域の皆さんが森に帰ってきて下さって、森仲間たちと力を合わせて活動を広げて行けば、一滴の水が波紋になって広がって行く。

皆んなが我欲・自己主張を押さえ〝共に生きる事”が「自然との調和・摂理」だと思う。自己主張と我欲の衝突が喧嘩であり，それが嵩じて戦争になる。わが国の「森林・林業の復権」は、森林・自然と共存できる体制・制度を整備すれば良い。そうすれば森林国・日本は素晴らしい国になるだろう。

石村　黄仁（本会、代表理事）

今月の定例活動

2013.04

4月 7日（第一日曜日）：
小原本陣の森/森林整備、担い手育成、技術向上。
持続的森林経営：弁当持参。参加費：４００円
4月21日（第三日曜日）：
相模湖・嵐山の森/里山交流、多様な森林活動。
主食・自分のお椀・箸・飲料水は持参。参加費：４００円

FSC
www.fsc.org
FSC® C006376
責任ある森林管理のマーク

[定例活動]小原本陣の森

3月3日（第三日曜日）

少し春らしいポカポカした陽気の中、3月3日に小原定例活動がありました。学生団体ForestNova☆の参加者は8名で、外部からの参加者はいなかったものの、永井さんという地元の方に参加していただきました。永井さんは小さいころから小原に住んでいて、子供のころはお父さんの手伝いでよく山に入っていたそうです。そのため山仕事も慣れていて、枝打ちの時は木の枝に腰かけて他の枝を伐るなどチェーンソー技術も川田さん曰くとても手慣れたものだったそうです。現在は埼玉大学の教授で、理学、理工、物理学を専門にしていらっしゃるそうです。小原演芸会で緑のダムの斉藤さんと仲良くなり今回の活動に参加してくださいました。こうして地元の方が定例活動に参加してくれることは大変うれしい出来事でした。

今回の小原での活動は普段とは違う場所で、相模湖インターチェンジ近くにある遊歩道周辺のヒノキ林で行いました。午前中はヒノキ林の下草刈り、午後は枝打ちと笹刈りをしました。今回のメインの作業は花粉症で体調の優れなかった人もいたなかで、みんなお喋りをすることもなく黙々と作業を進めていました。

また、今回の活動は、初めての場所ということだけでなく、ムカデ梯子で6m程の位置まで登って枝打ちをしたり、高枝ばさみで高い位置にある枝を切ったりと、使用する道具も作業も初めてのことが多く苦戦しました。しかし、高枝ばさみを使うときのコツや、今まで知らなかった知識を新たに得ることができました。そして、普段はあまり一緒に作業する機会のない松尾さんや斉藤さんと作業できたことも新鮮でした。今回のようないつもは体験できない事も普段の活動に活かしていきたいと思いました。

そして、定例活動の後、小原集会所にて私たちForestNova☆の四年生である植木さんの卒業パーティーが行われました。小原の方々、緑のダムの方々、そしてForestNova☆メンバーが植木さんとの思い出を語り、大いに盛り上がりました。植木さんにはこれまでのノバの想い、そして卒業後に目指すものを話してもらいました。ノバの活動は四年間では終わらない。植木さんが残してくれた言葉を大切にして、これからも私たちForestNova☆は前に進み続けていきたいと思います。

山田　和彦（Forest Nova）

[定例活動]相模湖嵐山の森

3月17日（第三日曜日）

この日、いつものように「ホリデー快速河口湖行」に乗ったまではよかったが、春眠暁を覚えず。山梨県の四方津まで寝過ごしてしまった。慌てて登り線に乗り換えたものの、朝礼には遅れる大失態。ご迷惑をおかけして申し訳ありません。

さて、栗畑や基地周辺ではフキノトウやアオイスミレの花が開き、カンゾウの若葉が春の訪れを喜ぶかのように揃って万歳をしている。県北嵐山にもようやくまた春が訪れた。今日は恒例のお茶会、大日本山林会・箕輪会長提案の森の囲碁大会、井伊会員の詩吟などイベントが盛り沢山。楽しい初春の一日になりそうである。参加者は６１名。

午前中、森林整備班は山主・鈴木さん所有のスギ巨木林の下刈り・つる切りを行う。植栽されたケヤキやモミジ、サクラなどを伐らないようにテープで印をつけていくのが私の役割。しかし、植栽木は人の背丈を超えているものが多く、誤って伐ることはなさそうだとしばらくしてから判断。ということで、いざ囲碁大会会場へ。

梅の花に囲まれた会場ではすでに箕輪会長と伊藤さんとの対局が始まっていた。しかし、よく見てみれば対局というより教えを乞うている様子。どちらがって？もちろん伊藤さんです。

箕輪会長は何せアマ七段の実力の持ち主。普通の碁打ちでは到底太刀打ちできるはずがない。「囲碁は自然の摂理そのもの、この小さな方形の中に宇宙がある」と石の配置、次に打つ手を森林を喩えに丁寧に話される。そばにはこれも達人・近藤さん（川田さんの中学時代の先輩）が着席され、箕輪会長とかつての名人同士の有名な棋譜を、実際に石を打ちながら「ここは最初の悪手です」「これが二番目の悪手。名人同士の戦いで二回もミスをしたら勝てませんね」などと互いに納得し合っている。私にはさっぱり分からないが、あんな複雑な局面をよく正確に覚えていられるもの。神わざというしかない。

昼休みにはお待ち兼ね、井伊さんの詩吟だ。吟ずるのは「寒梅」、作者は新島襄（同志社大の創設者）。「庭上の一寒梅　笑って風雪を侵して開く　争わず又力めず　自ら百花の魁を占む」。言葉はちょっと難しいが、解説付きのプリントが配られたので分かりやすい。朗々たる声が森に響く。

その後はいよいよお茶会の始まり。咲き香る梅の樹下での一服の茶はひとときの安らぎをもたらしてくれる。老若問わず、メンバーの顔も心なしかほころんでいるよう。春の陽があたる枯れ葉の上ではテングチョウがゆったりと翅を休めていた。

森林散策をしながら施業計画を立てたり、相模原市さくら祭出店の準備をしたりと今日も忙しかったフォレストノバ。掛かり木をつくってしまいながらもなんとか無事に間伐作業を終えた高井戸中。若者たちの元気な姿はいつも私たちに刺激と活力を与えてくれる。

この日はカブトムシ牧場にある落ち葉の天地返しが完了し、お花畑にも立派な堀と橋が出来あがった。帰りにはカンゾウの若葉を摘んでいく人もちらほら。これからますます山仕事が楽しくなってきそうな季節である。

内野郁夫（本会、理事）

[報告１]
湘南の森活動報告

・前回に引き続きヤブラン平～地獄沢の斜面と彼岸花群生地北側でアオキ、ササなどを
整理する。午後は彼岸花群生地北側に加えてヤブラン平に向かう南側の一帯で
・次回の作業は彼岸花群生地～ヤブラン平にかけて、残っている北側を予定
・シマテンナンショウは近年になく多くの発芽がみられる
・作業終了後の工具の整備（各自）

佐藤　憲隆（湘南の森）

[報告２]
杉並区学校文化栄誉顕彰を受賞

2月28日

高井戸中学校地球環境部では、この度、平成２４年度杉並区学校文化栄誉顕彰を受賞しました。この顕彰は、今年度杉並区内の公立私学問わず大きな成果を上げた個人、団体におくられるもので、個人では税の作文の入賞者などが表彰されています。団体は２団体のみが表彰されました。（ちなみにもう１団体は２年連続東日本大会に出場した高井戸中将棋部）

今回は、地球環境部部長に報告してもらいます。

昨年夏、北海道で開催されたコカコーラ環境教育フォーラムにおいて、私たち地球環境部が取り組んでいる森の間伐や、その間伐材で作った積み木を使い行っている活動について発表したところ、優秀賞を受賞しました。

その取り組みが評価されて先日杉並区から「杉並区学校文化栄誉顕彰」という賞をいただきました。この賞は、杉並区の学校で文化活動に関し、優秀な成績をおさめた個人、団体におくられるものです。

この賞を受賞できたおかげで私たちの活動をいろいろな人に知ってもらえたと同時に私はこの活動に誇りを持てるようになりました。卒業しても積極的に参加していきたいです。

今回の受賞は、緑のダムのみなさまをはじめ、多くの方のご支援、ご協力あってのことだと感じています。これからも間伐や枝打ちといった森林整備の技術向上を基本に様々な活動に取組んでいきたいと思います。

宮村　連理（本会、理事）

[報告３]
2013年3月15日　卒業

28日しかなかった2月が終わりを告げようとする頃、それを見送るかのように暖かな日差しと気温が雪を溶かし始め、3月がやってきます。3月は別れの季節。私たちForestNova☆にも、また別れが訪れます。

3月15日。この日は麻布大学の卒業式です。今年のForestNova☆4年生の植木聡さん、木島未華さん、關根穂美さん、矢野芽衣さんは全員麻布大学の学生ということで、この日を区切りに学校からは離れてしまいます。毎年のことなのですが、慣れることは決してありません。

卒業。その短い二文字の中にどれぐらいの気持ちが込められているのか。私たちには想像することしかできません。先輩方は忙しい学生生活の中にも関わらず、日々森と人との共助共生の理念の下に、毎週会議を重ね、さらに毎月2回の現場での活動をしてきました。その活動をしていく中で、森への想い、そして森で一緒に活動をする人との想いが混じり合って、今があるのだと思います。

先輩方が卒業しても、今までにしてきた行動の一つ一つが私たち現役生、さらにはこれから入ってくるであろう新入生にも脈々と受け継がれていきます。その中には、森での思い出だけでなく、小原の方と過ごした思い出、そして緑のダムの方々から教わった想いや知識が含まれています。これこそが、私たちForestNova☆が取り組んできた『森と人との共助共生社会が当たり前になる社会』を築き上げていくための大切な一歩ではないかと思っています。

歴代の先輩方が常々言っている言葉。それは、『ForestNova☆の活動は4年間では終わらない』ということです。そう、卒業はただの一区切りでしかありません。森と人への想いは受け継がれ、代が変わってもその軸は変わりません。この想いを忘れない限り、どんなに混沌とした社会の中でも、小さな光が集まって大きな光となり、未来を照らしてくれるはずです。

先輩方の卒業を迎え、一抹の寂しさを覚えた3月。それでも、私たちForestNova☆は、今までに出会ったたくさんの方の想いを引き継ぎ、これからも森と人が共に助け、共に生きていける、そんな社会を目指して活動を続けていきます。

浅野　雅樹（Forest Nova）

[報告４]
試作：積み木でつくる国会議事堂

3月19日

高井戸中学校地球環境部では、2013年に入ってから、本会の間伐材の積み木３万個を使い、国会議事堂の制作を行ってきました。この度、試作１号が完成しましたので、ご報告します。代表理事の石村さんは国会で披露されるおつもりだということで、生徒達も気合いが入っております。

今回の「見せ場」はやはりそのスケールです。東京駅やアンコールワットにもかなりの迫力がありましたが、この国会議事堂では、右下の写真でも分かるかと思いますが、ボリューム感があります。構造的にはさほど難しくありませんが、これだけのものを積み続けるというのはかなりの時間を要しました。また、試作ということで、手の届く所からはじめてしまった結果、中心部を作るために２つの中庭部分に人が入り、内部を作りました。当然、手が当たり崩れ、お尻が当たり崩れ、何度作り直したか分からないほどで、これほどの忍耐力を要した制作はありませんでした。

また、最も高い塔がいささか細い（天空の城ラピュタに登場しそうな塔になってしまいました）などの改良点も分かり、試作２号ではさらなる精度の向上を目指したいと思います。

宮村　連理（本会、理事）

前月号・お知らせの訂正

３月号で５月１８日に「相模原市立環境情報センター」での「森林・林業の復権勉強会、開催予告」をした。会場となる相模原市立環境情報センターの話しでは「市としても取り組むので準備の時間が欲しい」との事だ。勉強会は少し延期にします。ご了承ください。

相模原市からのご提案はありがたく嬉しい。市民と行政＋産＋学・・・、全ての人々が力を合わせれば、「森林・林業の復権」：森林破壊阻止と言う大きな問題は、解決に向かう。（運営会報告）

石村　黄仁（本会、代表理事）

[事務局からの
お知らせ、お願い]

相模原市民桜まつりに参加します

４月６日土曜～７日日曜に開催される相模原市民桜まつりに参加します。

当会が協賛参加する理由・目的は、以下の３点を広報・啓発するために実施しています。

[1] 森林「環境性」の保全・再生
[2] 森林資源の「経済性」の創出
[3] 森林と人々を繋ぐ持続的な「社会性」の維持発展

当会の運営する「環境を守ろうブース」は、市内の環境保全団体、森林NPO、造林・製材・建築業者、森林に関わる学生・大学、団体、林政関係者の参加と、祭りを盛り上げるためのミニＳＬ運行、積み木広場、茶席なども併催しています。皆さまも楽しく参加ください。

会員コーナー

●会員のコーナーでは、皆さんの自由なご意見やご提案をお願いいたします。下記の専用メールアドレスか、事務局FAXまでご連絡ください。また、こちらのコーナーへの投稿や写真の提供もお待ちしております。

●通帳からですと振り込み手数料が掛かりません。
領収書はゆうちょ銀行等の発行する領収書をご利用下さい。
また、新規入会の方は、住所、電話番号を事務局にお知らせください。
振込の際は局の振込用紙に記号、番号を記載し、振込者の情報を記入して、機械操作にてお振り込みいただけると助かります。

世田谷郵便局　（記号）10000-（番号）65791651

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合してください。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食；自分の食器(お椀・お箸)

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

NPO法人
緑のダム北相模

急がず、無理せず、楽しく、休まず、
ボチボチと・・。
そして、沢山の参加で森は、良くなる。
（台風の日は勉強会開催。１６年間、
一日も休まず“継続は力”。）

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
事務局：154-0023　東京都世田谷区若林３－３５－９
発行人：NPO緑のダム北相模　事務局 Tel&Fax　03－3411－1636
ＵＲＬ：http//www.midorinodam.jp
E-mail： info●midorinodam.jp　●を＠に変更して使用してください
corner●midorinodam.jp　会員コーナー専用アドレス

協働団体：セブンイレブンみどりの基金、相模原市（市民協働推進課）、東海大学付属望星高等学校、生命の森宣言・東京
支援団体：WWF JAPAN、イオン財団、市民社会チャレンジ基金、神奈川県建具協同組合、JFEメカニカル、東急コミュニティ、マルモ出版